

【表 3 (3)】研究成果(20)

サブテーマ名：循環器系疾患等に対する道産食素材の評価と開発 小テーマ名：リラクゼーション効果の新しい評価法															
サブテーマリーダー 研究統括 東 市郎(兼) 研究従事者 社団法人植物情報物質研究センター 角田英男、前田智男															
研究の概要、新規性及び目標 研究の概要 ハーブのリラクゼーション効果について、脳波(波)を指標にスクリーニングを行い、さらに心拍数、末梢皮膚温度などを評価系とした 研究の独自性・新規性 ハーブのリラクゼーション効果を化学的に証明した点 研究の目標 ハーブの波による第1次スクリーニング(フェーズ) 新規評価法によるハーブ中の有効成分評価(フェーズ) <span style="float: right;">達成率95%</span>															
研究の進め方及び進捗状況 リラクゼーションはヒトの自律神経への影響で起こる生理現象であり、これを脳波、心拍数、末梢皮膚温度などを指標として評価する方法を開発した。ハーブの中でも効果が見込めるカモミールで研究を進め、新しい評価法が有効であることが認められた。															
主な成果 具体的な成果内容： ハーブ(カモミール)のリラクゼーション効果について、ヒトの生理的反応を物理的、医学的に解析し、末梢皮膚温上昇効果を発見した。(特許) 有効成分の化学的解明  特許件数：1          論文数：2          口頭発表件数：7															
研究成果に関する評価 1 国内外における水準との対比 ハーブティーとして世界的に知られているが、その生理作用を化学的に証明した事例はない。  2 実用化に向けた波及効果 ハーブの有効成分を抽出し、これを用いてリラクゼーション効果末梢皮膚温効果を示す食品の開発。現在、ゼリーとして実用化。その他ガム等への添加などのニーズがある。															
残された課題と対応方針について カモミール以外のリラクゼーション効果を示すハーブについて、上記の評価を進めていく。															
	JST負担分(千円)							地域負担分(千円)							合計
	H10	H11	H12	H13	H14	H15	小計	H10	H11	H12	H13	H14	H15	小計	
人件費	4,259	6,531	7,188	6,644	0	0	24,622	10,000	132,000	0	9,080	9,080	0	160,160	184,782
設備費	1,261	1,354	2,677	0	0	0	5,292	0	3,160	0	0	0	0	3,160	8,452
研究費	1,268	3,146	2,650	4,400	2,100	0	13,564	5,300	7,040	0	11,856	11,856	0	36,052	49,616
旅費	228	640	429	278	0	0	1,575	0	0	0	0	0	0	0	1,575
その他	248	495	794	89	0	0	1,626	0	0	0	210	210	0	420	2,046
小計	7,264	12,166	13,738	11,411	2,100	0	46,679	15,300	142,200	0	21,146	21,146	0	199,792	246,471
代表的な設備名と仕様 [既存(事業開始前)の設備含む] JST負担による設備：ガスクロマトグラフ質量分析計、感性スペクトル解析装置 地域負担による設備：HPLC															